

～伊勢街道～

和泉屋

新茶屋にあった旅籠の一つで、「本陣茶屋」と呼ばれました。徳川御三家の一つ紀州藩のお殿様が伊勢神宮参詣の際に休憩したと伝えられ、関係の桶などが残されています。他にも当時の伊勢街道の賑わいを伝える貴重な古文書なども伝わっています。

秋田屋

松坂の干魚問屋の兄弟と秋田屋の娘との三角関係が原因で起きた刃傷沙汰が、「秋田屋事件」として芝居でも上演されたことがきっかけとなり一躍その名が知られることになった旅籠です。



在りし頃の秋田屋（時期不詳） 「従是外宮二里」の道標

三忠

伊勢神宮への参宮土産として大流行した擬革紙の煙草入れは、堀木忠次郎（屋号「三忠」）により貞享元年（1684）に考案された伝えられています。明治にはヨーロッパ・アメリカの博覧会にも出品され絶賛を受けました。



昭和初期の三忠

新茶屋地区の文化遺産

齋宮跡・文化観光課では、伊勢街道沿線の伝統的建造物の調査の一環として、新茶屋地区を対象に文化遺産の聞き取り調査を行いました。

- 第 1 回：平成 30 年 6 月 28 日 参加者 9 名
- 第 2 回：平成 30 年 12 月 12 日 参加者 8 名
- 補足調査：平成 30 年 12 月 10 日 三忠裏門の実測調査



～新茶屋の成立ち～

今回の聞き取り調査や明和町史および新茶屋の郷土誌などによると、新茶屋集落は紀州藩に仕えた森田氏昌（今の秋田屋）が正保年中（1644～1647）に開き、宝暦年間には戸数 150 余りの集落となり、参宮客相手の茶屋や旅籠を営む村人が多かったため、明星茶屋に対し新しくできた「新茶屋」として呼ばれるようになったようです。

両谷寺

浄土宗の寺院で、津市寺町天然寺の十二世見蓮社面誉祖殿大和尚により開基。元は度会郡七保村（現大紀町）にあった堂宇と本尊を移し、現本堂は明和年間（1764～1771）に建立されたといわれています。本尊は寄木造の木造阿弥陀如来立像で、像高が 90cm の「三尺立像」です。鎌倉時代の作とされますが、作風から平安時代末頃にさかのぼる可能性があります。明和町有形文化財。



本尊 木造阿弥陀如来立像

八柱神社

新茶屋の集落が成立した江戸時代前期に産土社として牛庭御厨社が建てられ、宝暦 2 年（1752）に八王子社と改称されました。明治 41 年（1908）に有爾櫻神社へ合祀されましたが、戦後旧社地である小字御前坂地内（地元ではジゾウヤブと呼ぶ）に分社され、昭和 31 年の造替時に現在の場所へ移転しました。江戸期の『伊勢路見取絵図』によれば、八王子社境内には天王社もあったようです。



昭和 31 年の宮立ちの様子

弘法さん

集落の東端、伊勢街道沿いに小さな祠に「弘法さん」が祀られています。毎月 21 日は弘法さんの縁日とされ、地区の人々がお参りをします。元は江戸時代の文政 13 年（1830）に新茶屋村の行者心勝によって建立され、現在の石像は明治 34 年（1901）に新茶屋村の人々によって再建されたものです。大正時代に弘法さんは一度埋められてしまいましたが、関係者に次々と不幸が起きたため、改めて大事に祀られるようになったそうです。



昭和 52 年頃の弘法さん

<祭りや行事>

1～8番組構成

	現在	昔
1月	初詣、両谷寺年賀(4日)	伊勢講(1日)
2月	神事	お頭神事
3月	初午(岡寺参拝)、道普請	時講(トッコ)春彼岸
4月	花祭り(8日)	
5月	磯部講、浅間祭	野上り日待ち
6月		
7月	天王さん(14日)	
8月	初盆参り(14日)、初盆送り(16日)	
9月		時講 秋の彼岸、会式踊り(上旬)
10月	御十夜(ジュウヤ)	秋葉日待ち(16日)
11月		ものとう、山の神(23日)
12月		秋葉さん(3番組)
その他	庚申さん(かのえさるの日) 弘法さん(毎月21日)	

